

2021 年度日本建築学会大会（東海） 建築デザイン発表会発表梗概 応募要領

会場：名古屋工業大学およびオンライン
期日：2021 年 9 月 7 日（火）～10 日（金）

第14回を迎える「建築デザイン発表会」は、2021年9月7日（火）から10日（金）まで2021年度大会（東海）・名古屋工業大学（名古屋市昭和区御器所町）およびオンラインにて開催する予定です。開催方法の詳細については現在検討中ですので、最新情報や変更事項については、随時大会ホームページにてご確認ください。

また今大会より、各発表が貢献するSDGsの関連ゴールを選択いただきます。詳細は大会ホームページからお知らせしますので、ご確認のうえご応募ください。

発表申し込み期間：2021 年 2 月 15 日（月）～4 月 7 日（水）17 時（厳守）

投稿時に講演発表者の会員資格（会員番号）が必要となりますので、未入会の方は余裕を持って入会手続きを行ってください。入会手続きが間に合わないと投稿できませんので、くれぐれもご注意ください。また、学術講演の締切日と異なるのでご注意ください。

【重要】2021 年 3 月をもって論文予約会員制度が終了することに伴い、大会発表登録費の免除制度も廃止されます。したがって今大会より、従来の論文予約会員を含む、講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費をお支払いいただくことに変更となります。とくに共同発表者の方も発表登録費が必要であることを、事前に十分説明・確認のうえ投稿してください（詳細は[こちら](#)をご覧ください）。

この建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けて設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としています。

ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいいます。発表にあたっては、以上の主旨がよく伝わるよう表現してください。

建築デザイン発表梗概を下記の要領で募集いたしますので、以下の事項に十分ご留意のうえご応募ください。

- 講演発表は正会員（個人）・準会員・名誉会員に限ります。
ただし、講演発表者もしくは共同発表者に 2020 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者、2020 年度論文予約購読費未納者がいる場合は応募できません。
- 建築デザイン発表会および学術講演会において、それぞれ 1 題（計 2 題）の講演発表が可能です。応募規程「3. 発表者の権利・義務」「9. 発表登録費」をご覧ください。**
- 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表-1 参照）を納入しなければなりません（請求書を 6 月中旬ごろお送りします）。ただし、名誉会員は発表登録費を免除します。
- 大会に参加する場合は、発表登録費とは別に大会参加費が必要になります。
- 建築デザイン発表会は、公開の場で発表し議論されることを目的としていますので、必ず大会に参加し、講演発表を行ってください。欠席は発表とは認められません。
- 代理の講演発表は一切認められていません。ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合（半日単位）には、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って共同発表者による代理の講演発表を認めます。
- 締切後の原稿の訂正は一切認められていません。
- 原稿執筆要領に示されている基準を大きく逸脱した原稿は不採択の対象となります。あらかじめ、応募規程「8. 建築デザイン発表梗概の採否」で送信用の原稿をよく確認してください。特に「原稿執筆要領」以外の環境で作成された PDF ファイルは、図・表・写真等が正しく表示されない場合があります。原稿送信後は必ず「梗概集原稿の確認」画面から確認してください。
- 2020 年度の発表は既発表となりますので、同じ内容の原稿は不採択となる場合があります。**
- テーマ部門では、各発表終了後に全体ディスカッションを行い、招待講評者が優秀発表を顕彰します。テーマ部門の発表者は、当該セッションの最後まで参加してください。
- 本文の言語は、日本語のほか英語での投稿も受け付けます。英語専用の投稿サイトを設けますので、ふるってご応募ください。

電子投稿の大会コードは半角小文字で nagoya です。

応募規程

1. 対象

- a. 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学、高等専門学校および専門学校の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- b. 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造、環境工学・設備、材料等の技術分野の設計、構工法・設計システム等にかかわる設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

2. 応募・発表資格 発表者（講演発表者および共同発表者）の資格は次による。なお、いずれも2020年度会費未納者、2007年度以降の大会発表登録費未納者、2020年度論文予約購読費未納者は応募できない。

2.1 講演発表者（〇印）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員であって、発表登録費（表-1参照）を期限までに納入した者
- b. 本会名誉会員

2.2 共同発表者（連名者）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員であって、発表登録費（表-1参照）を期限までに納入した者
- b. 本会名誉会員
- c. 会員外であって、発表登録費を期限までに納入した者

3. 発表者の権利・義務 発表者の権利・義務は次のとおりとする。

- a. 講演発表者（〇印）は、建築デザイン発表会に出席し、一名1題、または学術講演会1題と併せて計2題の講演発表を行うことができる。
- b. 講演発表者は必ず大会に参加し講演発表をしなければならぬ。共同発表者による代理の講演発表は認めない。
- c. ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合^(注1)は、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限り代理の講演発表^(注2)を認める。学術講演については代理の講演発表は認めない。
(注1)「発表時間帯が重なった場合」とは、半日単位で発表時間が重なった場合を指す。
(注2)代理の講演発表は、正会員（個人）、準会員または名誉会員であり、当該建築デザイン発表の共同発表者に限って認める。該当する者がいない場合には、代理の講演発表を認めない。代理の講演発表は、一名1題を限度とする。
- d. 共同発表者（連名者）は、名を連ねる梗概の題数に制限はないが、講演発表を行うことはできない。
- e. 講演発表者の出席・欠席およびc項による代理の講演発表は学術推進委員会に報告され、記録として保存される。また、欠席およびc項による代理の講演発表の講演番号は本会ホームページにおいて公表される。

4. 応募方法 大会ホームページからの応募（電子投稿）に限る。大会ホームページ上での発表申込および発表梗概原稿の送信をもって応募とする。なお、締切後の原稿の訂正は一切認めない。

5. 応募部門 応募部門は、テーマを定めない一般部門と、テーマおよび招待講師者をあらかじめ公表するテーマ部門のいずれかとし、建築デザイン発表申込画面の所定欄にて応募部門を選択する。

5.1 一般部門

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議で発表セッション分けを行う。また、各セッションには、原則として運営委員が参加する。

5.2 テーマ部門

テーマ部門のテーマおよび招待講師者は年度ごとに定める。2021年度のテーマ・招待講師者は、次ページの「テーマ部門のテーマ・招待講師者」による。テーマ部門は1テーマあたり最大20題程度とし、招待講師者がプログラム編成時に選ぶ。テーマ部門に選ばれなかったものは、一般部門で発表する。

6. 発表方法 発表方法等の詳細については、学術推進委員会から連絡する。

7. 応募期間

期限：2021年2月15日（月）から**4月7日（水）17時**（厳守）（学術講演の締切日と異なるので注意してください）

提出先：<https://www.ajj.or.jp/jpn/d-taikai2021/>

8. 建築デザイン発表梗概の採否 建築デザイン発表梗概の採否は、学術推進委員会が決定する。下記条項等に照らし大会建築デザイン発表梗概として不適当と認められるものは採択しない。不採択となった場合は5月20日までに本人に通知する。なお、提出された原稿は一切返却しない。

- a. 梗概に記載された内容が著しく不十分なもの。
- b. 内容が商業宣伝に偏したものの。
- c. その他、応募規程、執筆要領に反するもの。

9. 発表登録費 発表登録費は表-1による。ただし、留学生で会員の発表登録費は発表申込み時に申請があれば減額する。

表-1 発表登録費

	名誉会員	正会員・準会員	留学生	会員外
1) 学術講演会で発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
2) 建築デザイン発表会で発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
3) 学術講演会/建築デザイン発表会の両方で発表する者*	0円	13,500円	3,000円	— (発表不可)
4) 共同発表者（口頭発表を行わない連名者）	0円	題数によらず 9,000円	題数によらず 2,000円	題数によらず 13,000円

* 発表は、学術講演会、建築デザイン発表会で各1題まで発表可能（「3. 発表者の権利・義務」を参照）

a. 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表-1参照）を請求書に記載の期限までに納入すること（請求書は採否決定後に送付される）。ただし、名誉会員は発表登録費を免除する。

【重要】論文予約会員制度が2021年3月をもって終了することに伴い、発表登録費の免除制度も廃止となります。したがって、従来の論文予約会員を含め、講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費をお支払いいただく必要がありますのでご注意ください(名誉会員は除く)。

b. 共同発表の発表登録費は、題数によらず1題分とする。

c. 講演発表者（〇印）は発表者を代表して共同発表者の発表登録費の納入の義務を果たすものとし、全員の発表登録費の納入がない場合は、当該建築デザインの発表ができない。

d. 発表登録費未納者は、2022年度以降の学術講演会および建築デザイン発表会に応募できない。

10. 大会参加費 大会に参加する者は、前記「9. 発表登録費」とは別に大会参加費を納入するものとする。

大会参加費および事前納入手続きについては本会ホームページおよび「建築雑誌」4月号に掲載する。

11. 梗概集 採択された建築デザイン発表梗概はDVD版大会梗概集（学術

講演梗概と建築デザイン発表梗概を収録)に収録し、頒布する。なお、発表登録費納入者にはDVD版大会梗概集を無償で送付する。

12. 著作権

- 建築デザイン発表梗概の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権をもつ。
- 梗概の複写権、翻訳権は本会に委託するものとする。
- 著作権の侵害等の問題は応募者がすべての責任を負う。建築デザイン発表梗概集は電子形態によって公開されることを前提に、写真等については他者の著作権を侵害しないように十分注意する。

13. 電子形態による公開 建築デザイン発表梗概集は、本会および本会が許諾したウェブサイトから全ページが公開される。

14. 講評等

- テーマ部門では招待講評者が2題程度の建築デザインを顕彰する。
- 大会終了後に招待講評者の講評を本会ホームページに掲載する。

テーマ部門のテーマ・招待講評者

2021年度のテーマ部門のテーマ・招待講評者は、下記のとおりである。

a. 東日本大震災10年の反省—自然に挑まない復興計画：

和田 章 (東京工業大学名誉教授)

東日本大震災の起きた四月の小学一年は高校二年まで育ち、同じ期間に防潮堤と土盛の工事は次々と進められました。景観を壊し、陸と川と海の自然循環は断たれ、人々は戻っていません。自然に挑むのではない別の復興計画を再提案してください。

b. 土木の建築：

栗生 明 (栗生総合計画事務所代表)

2013年、当時の和田章日本建築学会会長と小野武彦土木学会会長の特別対談が『建築雑誌』誌上で行われました。対談の内容は「工学が扱う世界に境界線はない」とまとめられています。土木と連携した建築デザインの可能性を聞きたいと思います。

c. 3日でつくれるコミュニティハウス：

三宅理一 (東京理科大学客員教授)

災害やパンデミックに限らず、日常生活を送るうえでも、状況に対応して相互のコミュニケーションを担保する居場所を確保することが重要です。迅速で移動可能、誰でも参加ができる建築的な仕掛けを提案してください。

d. コロナ以降の建築：

手塚由比 (手塚建築研究所代表取締役)

この新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、人々の価値観や生き方に大きな影響を与えています。この経験を経て、建築や都市も変化していくことが考えられます。どのような変化があり得るのか、もしくは変わらないものは何かを考えてみたいと思います。

e. ポストコロナ時代の環境デザイン：

荻原廣高 (神戸芸術工科大学准教授)

ポストコロナ時代に沿う新しい生活や空間の在り方を促し、その先に直面しようとしている気候変動にも備える。単に過去の日常を取り戻すのではなく、よりよい都市や建築の姿を支える新時代の環境デザインについて考えましょう。

f. 「ひとり」と「みんな」のあいだ：

南後由和 (明治大学准教授)

コロナ禍では、「個人空間 (ひとり空間)」のあり方が問い直されるよう

になりました。「ひとり」か「みんな」かの二者択一ではなく、両者のあいだに多様な関係を築くには、どのような建築デザインが求められるでしょうか。既存の「ひとり」と「みんな」のあいだの空間イメージを書き替えるような提案を期待します。

原稿執筆要領

建築デザイン発表梗概原稿は、大会ホームページの書式例を参照のうえ、原稿執筆要領にしたがって執筆してください。

1. ファイル形式

電子原稿は Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF (Portable Document Format) ファイルで提出すること。

2. ファイルサイズ (容量) の制限

ファイルサイズは **3MB 以内** とする。3MB を超えたファイルは受信しない。提出するファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないこと。

3. ファイル名について

必ず拡張子 (.pdf) が付いているファイルとする。

4. 作成するアプリケーションと OS

原稿を作成するアプリケーションの制限はない。OS は Windows 7 以上または Mac OS 10.12 以上を推奨する。

5. PDF ファイルの作成方法

PDF ファイルは、原則として Acrobat DC 以降 (または同等品) を用いて作成すること。作成方法についてはソフトに付属のマニュアルまたはホームページ上の執筆要項を確認すること。

Acrobat の詳細については <https://www.adobe.com/jp/> をご覧ください。

6. 用紙設定

白地の A4 判 2 ページとする。ワープロソフト等で上マージン 15mm、下マージン 15mm、左右マージン 15mm、として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要領に反するものとして不採択となる場合がある。

7. 使用できるフォントの制限

投稿された PDF ファイルは Windows または Mac 上で稼働する DVD に掲載されるため、原稿内に使用するフォントは以下に限定すること。

OS	Windows	Mac (OS10.12 以上)
日本語フォント	MS 明朝または MS ゴシック	MS 明朝、MS ゴシック、ヒラギノ
英字フォント	Arial, Century, Helvetica, Symbol, Times, Times New Roman	

※ どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF 作成時にフォントの埋込みを行ってください。

8. 記載方法

下記の項目をレイアウト見本に準拠して記載する。レイアウト見本はホームページ上で提供する。

a. 1 ページ目上段

・表題、会員種別・発表者名 (連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける)・所属を上段に記載する。

ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。

・連名者で、設計統括責任者・指導教員等を明示する必要がある場合は、その者の氏名の前に※印をつけることができる。※印を付した場合は、その役割を註記する。

b. 2 ページ目上段

・所在地 (計画案の場合は適宜、とくに住宅等では建築主のプライバシーを考慮して表記する)、主な用途、敷地面積、建築面積、延床面積、キーワード、特記事項・データ等を上段に記載する。

ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記

とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。

9. 設計趣旨・説明文

設計趣旨(600字以上)・説明文は適当と思われる場所にレイアウトする。設計趣旨・説明文の文字の大きさは8ポイントを原則とする。

10. 図・表・写真等

図・表・写真等は適当と思われる場所にレイアウトする。図・表・写真等は原稿に貼り付けた状態でPDF化し、別ファイルにはしない。発表者以外が撮影した写真等を使用する場合は、著作権所有者から許可を得るなど著作権に十分注意すること。

また、図・表・写真等の画像を含む場合、PDF化することにより、出力品質が劣化することがある。ファイルサイズ制限内で、PDF化する際のジョブオプションの値を高くして作成すること。

なお、原稿本文中に関連するサイトのQRコードを示すことは認めないが、参考文献中にサイト名とURLを記載することは構わない。

11. キーワード

発表申込画面に入力したものと同一キーワード3~6個を必ず記述する。用語は日本建築学会「学術用語集—建築学編」から選ぶことを基本とするが、適当な用語がない場合はこの限りではない。

12. 色使い

本文の文字は黒色とするが、図・表・写真等については色使いの制限はない。

13. 印刷の確認

作成したPDFファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷されることを確認すること。

14. その他

応募上の注意、発表申込み入力要領、電子投稿要領における手順は、学術講演会と共通です。

●2021年度大会建築デザイン発表会運営委員会

委員長	陶器 浩一 (滋賀県立大学)
幹事	杉浦 久子 (昭和女子大学)
	萩原 剛 (早稲田大学)
	古谷 誠章 (早稲田大学)
	堀越 英嗣 (芝浦工業大学)
委員	浅石 優 (元東京都市大学)
	伊香賀俊治 (慶應義塾大学)
	伊藤 恭行 (名古屋市立大学)
	門脇 耕三 (明治大学)
	小泉 雅生 (首都大学東京)
	佐藤 淳 (佐藤草構造設計事務所)
	佐藤 光彦 (日本大学)
	下吹越武人 (法政大学)
	清家 剛 (東京大学)
	田辺 新一 (早稲田大学)
	羽鳥 達也 (日建設計)
	本杉 省三 (日本大学)

会員番号・大会用会員外登録番号の取得

2021年度大会で建築デザイン発表するために新たに入会される方は、**応募時までに必ず入会手続きおよび入会金・会費の支払い手続きを済ませてください。**応募するためには発表者(会員外も含む)全員の会員番号または大会用会員外登録番号が必要ですので、次の方法により取得してください。

会員番号の取得: 本会ホームページで入会手続きを行ってください(<https://www.ajj.or.jp/>)。

入会予定者は入会金・会費の支払い手続きをされないと、入会手続きが完了しません。

①インターネット経由で入会手続きを行う場合は、入会金・会費の支払い方法として「**口座振替**」を希望すると**Web上で会員番号を即時に取得できますが、「請求書払い」を希望すると入金後に会員番号が発行されますので、取得に10日間前後の時間が分かかります。**十分にご留意ください。また、2021年2月下旬頃までに「コンビニ決済」を導入する予定です。コンビニでの入金後、すぐに会員番号が発行されます。なお、いずれも正式な入会は理事会承認後となります。

②郵送またはFAXで入会手続きを行う場合は、入会申込書が事務局に到着後、**会員番号の取得に10日間前後の時間が分かかりますので、できるだけインターネット経由で「口座振替」をご利用ください。**

大会用会員外登録番号の取得: 本会ホームページ(<https://www.ajj.or.jp/jpn/d-taikai2021/>)で取得してください。